



The 8th General Conference
of EASTICA & Seminar
2007. 10. Tokyo

EASTICA第8回総会およびセミナー開催にあたって

内 田 俊 一
内閣府事務次官



本日、この EASTICA 東京総会に東アジア各国各地域からご参加いただいた皆様に対しまして、日本政府におきまして公文書行政を担当しております内閣府を代表しまして、心から歓迎のごあいさつを申し上げます。ようこそいらっしゃいました。

そして、国内外の大勢の皆さんのご参加のもとで、この総会が盛大に開催されますことをお喜び申し上げます。

先月、我が国におきましては、新しく福田内閣総理大臣が就任をいたしました。福田総理は、国立公文書館というのは歴史の流れを超えて国家と国民の記録を正しく保存する記憶装置である、こういう認識を明らかにされまして、その充実強化を大変重要な政治課題として、これまで取り組んでこられた政治家であります。こうした政治家が総理大臣に就任をいたしまして、恐らく、これから日本の公文書行政は大きく前に進むのではないかと私たちは期待をいたしております。

ちょうどそうした折に、この東京で EASTICA の総会が開かれるということは、今申し上げた私たちの期待を現実のものにするために、非常に力強い応援になると私は確信をいたしております。

先ほど、菊池館長のスピーチにもございましたけれども、今、世界じゅうでインターネットが急速に普及をし、これにあわせて、さまざまな電子媒体が登場をいたしました。こうした状況は、私たちが、皆様が担当しておられる公文書を取り巻く大きな状況変化だろうと思います。そして、この日本におきましても今、国を挙げて高度情報通信ネットワーク社会の構築に取り組んでいるところでございます。

こうした時代背景の中で、今回の総会のテーマは「電子政府化の進展と電子記録管理」ということだそうでございます。大変タイムリーなテーマだと私は思います。この総会に参加されたすべて

2008/1

の国の公文書行政にとって、この総会、セミナー、そしてシンポジウムは大きな意味を持っていると思います。今回の総会の成功を心から念願をいたしまして、ごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。